

タイ・クラボウ
が紹介します!

面白がりクラボウ人

「仕事を面白がる」とは「既存の枠を壊して新しいことに挑戦し、自ら何かを変えていくこと」。この企画では「この人こそ面白がって仕事をしてる!」と思う人を紹介してもらいます。

関係会社編



「面白がり」6項目

- ① 既存の枠にとらわれず、いつも新しいアイデアを追求しよう。
- ② 広く好奇心を持ち、いろんなことに飛び込んで行こう。
- ③ 互いの個性を受け入れ、どんな意見もぶつけ合おう。
- ④ 一度やると決めたことは、情熱を持ってやり遂げよう。
- ⑤ だれかを驚かせ、喜ばせ、ワクワクさせよう。
- ⑥ 未来の社会に役立つものを生み出していこう。

紹介者



いのうえ えいじ
井上 英治さん

タイ・クラボウ株式会社
紡績課
(1998年クラボウ入社、2020年より現職)

スタッフの不安を、 未来の希望に変える、実行力

繊維事業部の日本の工場で行っていたスマートファクトリー化（工場の自動化）。当社では今年度から本格的に取り組みを始めています。紡績課長のルンリットさんは実行力のある良きパートナーで、自動化によりグローバルな生産体制を築くという目的に向け一緒に取り組んでおり、計画が順調に進んでいるのは彼のおかげです。

ルンリットさんの管理する部署には、約80人の現地スタッフがいます。タイの方々には明るく素直で仕事を好み、仕事に誇りを持っていますが、それだけに工場の自動化に関しては自分の持ち場変更や、新システム導入などで働き方が変わることに対し慎重気味。そんなスタッフに対して、自動化を推進することで今の仕事がより「面白くなる」とユーモアを交えながらしっかりと話し合い、少しずつですが管理情報のデジタル化

や綿を運ぶ自動搬送機の導入などを実行してくれています。もちろん、彼自身が新しいシステムに興味を持ち、その良さを十分に理解しているから、スタッフへの話にも説得力があり、前向きに取り組もうという姿勢が生まれるのだと思います。実際、自動搬送機を導入したことで搬送業務に関わる時間が削減でき、その時間を付加価値の高い生産業務に充てられるようになるなど、目に見えて効果が上がってきています。

私とルンリットさんは年も同じで、上司と部下と言うより、なんでも相談できる同期生。クラボウ安城工場でも研修経験があり、日本語でのコミュニケーションも可能なルンリットさんがいるのは、心強いですよ。



ルンリットさんが導入を実現させた綿の自動搬送機

面白がりポイント

ユーモアを交えた前向きなコミュニケーションで、スタッフたちの働く意識を向上させる

タイ・クラボウ株式会社はこんな会社です!



当社は1968年に設立された繊維製品の生産および販売をおこなっている会社です。繊維セグメントにおける海外の重要拠点として、大手SPA向けの製品を中心に商売を行っています。最近では、日本と連携してスマートファクトリー化の推進や太陽光発電を行うことを計画しており、時代とともに変革を遂げています。